

Himalaya-Changing Landscape 写真展について

野田憲一郎

この写真展は、カトマンズに本部を置く国際機関 ICIMOD(総合山岳開発国際センター)が創立 25 周年記念に企画したもので、これまでにヨーロッパ主要都市やネパールなどで開催された。日本では行われていない。

ヒマラヤ地域ではここ 50 年、地球温暖化や難民の流入、都市化などにより、氷河の後退や森林の伐採など目に見える変化が起こっている。この様子を写真で表現し、ことの重大さを訴えることを狙っている。ことに大型のパノラマ写真 4 組(1950 年代と 2000 年代比較)は氷河湖の変化を生き生きと物語る。

私は、2007 年松本市で開催の「国際山岳環境会議」で温暖化に伴う氷河湖の拡張、決壊の脅威を知り、この写真展を HAT-J として日本で開催したいと企画した。その秋にリーマンショックが経済界を襲い、スポンサー開拓ができぬままに今年まで開催できなかった。

それまではヨコ 3m×タテ 2m 程度の大画面で行う予定だったが、ICIMOD のアドバイスもあり、まず小規模に行うことにし、ISAP2011 (アジア太平洋の持続的発展の国際シンポジウム)にポスターセッションとして展示することにした。

スポンサーが開拓できれば、秋に大型画面で開催したいと願っている。

ISAP2011 会場に入場するには、参加費は無料ですが、主催者の IGES(地球環境戦略研究機関)に申し込みが必要です。環境問題の学会として聞きごたえある公開セッションもあります。

申し込みは、次の通りです。

http://form.iges.or.jp/r/c.do?hi_43T_6szog

私は原則としてポスターセッションについています。おいでになる方はメールでお知らせくだされば幸いです。

以上